
白の世界(ver.笑い)

ケイム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白の世界（ver・笑い）

【著者名】

N9387A

【作者名】 ケイム

【あらすじ】

先に白の世界をお読みください。全然違うお話になつますので

「もうすぐ着く頃だろうか?」

僕はそう一言発すると、

電車の窓から見える景色に目を奪われていた。

何故この電車に乗っているのか?それは愛した人の実家に向かっているからだ。
しかしながら僕の愛した人はもう居ない。

僕の心のなかでは未だ色褪せない人。とても物静かで髪の長い人。
僕の冗談を笑ってくれた人。愛を語るのは君が最初だった。。

君が事故にあったと聞いた僕は抗議の途中に大学から慌てて病院に向かつた。。。君は手術室に運ばれる前だつたね。君は朦朧とする意識の中で、かすれた声で僕に言ったよね。

「ありがとう

つて。左指には僕とお揃いのペアリング。それは愛を誓った夜に僕が君に上げた最初で最後のプレゼント。

僕は手術室の前で永遠とも思える時間を過ごしていた。どれくらい経つたのだろうか?僕が気付くと目の前には真っ白の世界が広がっていた。その世界はとても穏やかで、やさしい空間だつた。僕はその世界の中で君を見つけた。君は僕にそっと微笑んで、悲しい顔をしたよな。。

僕は感覚的に理解したんだ、この白の世界は君が最後に僕と会つたために創つた幻だと。

その後君の笑顔をみるとことはなかった。

君が何故死んだのか?そう思つて僕は

君が事故を起こした場所に行つてみたんだ。すると悲惨な光景が目の前に広がっていたんだ。 その事故現場の周りにはたくさんの人が居たんだよ。その中から不意に話し声が聞こえたんだ！

「あの子可愛いしねえ、落ちている1000円札を拾おうとして車にひかれたんだって」

その声を聞くと僕はいつの間にか泣いていた。

「1000円（年）の恋も覚めると」

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9387a/>

白の世界(ver.笑い)

2011年1月9日04時11分発行